

洋燈 ランペン 英語 ランプ Lamp

ランビキ。和蘭語 ランビク Lanbique

カンテラ 和蘭語 カンテラ Candelaar

骨牌。スヘーン語 カルタ Cartta.

ロップ、和蘭語 ロップ Kopp

石鹼 シヤボソ スヘーン語 シャボソ Xabon

(未完)



講義

育兒學講義

中村 五六

はしがき

しろかねも、こがねもたまも、なにせんに、まじ
れるたから、こにしかめやも。

世の中に、たからといふたから數ある中にも、子
もほご尊とさものはありませぬ。俗言にも、萬のく
らより子はたから」と申すことがありまして、親た
るものが自ら其の子を愛して育て、尊とみて教へ、
家の柱ともなり、國の棟ともならんことを願へるは
昔も今も我國も外國も皆同じきことであります。既
に子どもは國家の大切なるたからたることを知り、
これを愛することは、人皆自然の情に出て殆ど一樣
なれども、これを取扱ふこと其の當を得ぬものは甚
だ尠からぬやう思はれます。是れは其の方法を辨へ
ざるに依ることもあり、或は知りながらも愛に弱れ
て正しさを失へるに歸することもありませう。併し
或は初より真に其の尊さものを知らず、徒らに
書畫骨董の類を愛重する人なしとも限りませぬ、さ
りとは歎かはしきことでありませぬか。

世は漸く進み種々の學術も開らけ往きて、女子には衣服の製方保存方又器具の取扱方等のことに至るまで、教ふるの時勢となりましたれば、萬物の長たり、國家の寶たる幼児の保育法などは、必ずよく修むべき事柄なりと考へます。之に依りて今本題「育兒學」を掲げて追項講話致しまするは、幼児の尊ときたからたることを感じて、これを取扱ふ方法を知らんと欲する人に、幾分の裨益を興へまたはこれを知りてせざる人に、多少の刺激ともならば、私が望足るといふ考であります。されどもまた縁なき衆生濟度の導きとなることもあらば、是れは誠に望外の幸と申さなければなりません。

第一章 幼児の生れたてに於ける身體の有様

○幼児の健康に影響する原因。

両親の健康が幼児の健康に影響するとは、槩にして

又其の身體に病毒(梅毒の如き)存するときは、子は其の病に罹ることも明かなる事實であります。此のことに就きて稍々悉しく述べるとは必要でありませぬも、今は省きて幼児が獨立の生活を營むに至りたるの後直接にこれに影響する事柄を話すことに致します。

幼児は猶ほ母の體內にあるときは、生命も發育も全く母に頼りて居ますれば、これを母の一部と考へて宜しいのです。けれども一旦此の世に生れ出でまするや大きな變革が起るといふことになります。こゝにざつと其譯を申しませう、

先づ、是れまで暗き處に唯獨り無我無心に休みて居ましたものが、明るき處に移り、自ら活きて活を營むことに變り往くのは、誠につかの間で起ることであります。先きには常住不變の溫度を保てる液中に眠りしも、今は溫度低く且つ變化不時の空氣に接し、また

被服も柔かなりといふも、已前に比べますれば、粗きものに觸れなければなりません。先には母の血液に養はれしも、今は自ら營養をとり、これを消化し、また其のかすを排し棄てなければならず、血液の循環や、またこれを清淨にすることも、自らこれをなし嘗て母より得たる體温も、今や自身の機關の働きによりてこれを採るの要があります。先には母の感覺と注意とによりて、害を防ぎしも、今は自身の感覺を以て、直に外部の刺激をも受けざるを得ず、己の安全や危険を母に知らしむるには、泣き或は笑ひによるの外ありませぬ。

以上述べまするが如き變化のありまするは、即ち生れたての子どもに危険多き原因でありますれば、此の期に於ける幼児の本體性質を了解せず、これを取扱ふこと其の有様に適はざるときは其の危険は愈々多きを

加へます。人生の死亡の割合が一年に最も多きは、大いに此の故に由ること、認めて差支ありません。こゝに於てか幼児の諸器關の特別なる點は如何に、また其の變化の移行は如何なるかを究るの必要が生じます。

○神經の活動、筋肉の運動

神經の活動と筋肉の運動とは、幼児が生るれば第一に起る働きなることは、問ふまでもなきことでありまして、幼児は母の一部たることが終る、其時より、生命の存續は呼吸によりて居ます。故に若し數分時たりども、呼吸を止むるやうのことあらば窒息するのでありませう。而して先づ呼吸を始め、且つ血液循環することが出來まする爲めには刺激を受けなければなりません。夫れゆゑに幼児が生るゝやいなや、皮膚は冷なる空氣に觸れ不意に不快の感を受けて呼吸の働き生じます。斯る不意の刺激が神經の感覺を起し従ひて肺

臟の働きを始めます。然るに此の感覺を與へて直ちに神經の反射運動を起すは、神經は始めよりよく發育しまた皮膚一面に廣がりて居ると思はなければなりません。

そして幼児が呼吸を始めまする仕方は、華氏の寒暖計にて九十八度乃至百度の温度より六十度乃至六十五度(時により此温度以下のこと少からず)に移る急變を思ひますれば、誰にても容易く合點が出来ます。大人でも冷水に浴しますれば思はず知らず喘ぎて荒き呼吸を致します、まして微妙の體を有し且つ感じ易き生れたての兒は猶ほ更のことでありませす。此の冷氣に觸れて得たる感覺は極めて不快なれば、幼兒は直に泣き出します、これが即ち初聲です。此の初聲は不規則の呼吸を起しますれど、肺臟を押し廣むる利益を與ふるものなれば、俗に申す通り、初聲をよくわぐる兒は達者

な印と考へてよろしいのです。

又幼兒の皮膚の感覺の鋭きことは外部の害を防ぐといふ一の大切なる功能があります。幼兒の身體は申すまでもなく薄弱微細にして、些少のことも其健康を害ふものであります。たとひ僅に空氣の寒暖其の度に外れ、少しにても衣服の粗さに過ぎ、又は清潔を怠りこれを抱き或は臥さしむる矩合よろしからざるが如きあらば、全體または局部の疾病を引き起すこともあります、されば此の際の注意は最も大切なること言ふに及ばぬ次第と考へます。

猶ほまた幼兒の神經の感覺鋭きは、害を防ぐの利益あると同時に、若し其處に病を起す原因が存するとき、必ず危険を増すものなることを忘れてはなりません。故に幼兒の疾病は其の經過速にして、往々不幸に終ることがあります。百の治療は一の豫防に如かぬ

といふ諺ことわざがあります、幼児にとりては、一の豫防よぼうは千萬せんまんの治療じりょうに優るといふて宜よろしからうと存ぞんじます。

神経しんけいの活動くわつどうと筋肉きんじくの運動うんどうとは右みぎに申まうすが如ごとくにて始はじまりましたが、其その働はたらきは次つぎには幼児生命せいめいの保存ほぞんの爲ためめに肺臟はいぞうと心臓しんぞうとに起おこります、これを呼吸こきゅう、循環じゆんくわんと名なづけます。尙なほほこゝに幼児ごうじが生なれ出でつると直ちかに三さんの大だい切きなる變へん化くわが起おこると申まうされます。其そのの一ひとは神しん經けい系けいの働はたらくこと、二ふたには肺はい臟ぞう廣ひろがり呼こきゅう吸しゅう生せいずること、三さんには血けつ液えき循じゆん環くわんの通つう路ろが變かははることです。幼よう兒じ胎たい内ないに在あるときは肺はい臟ぞうは用ようをななしませぬ故ゆゑ、血けつ液えきは心しん臟ぞうの右みぎ側がわより直ちかに左ひだり側がわに進すすみましたが、今いまは肺はい臟ぞうを通つう過か致いたします。血けつ液えき循じゆん環くわんのことは勿もちろん論ろん幼ごう兒じ身み體たいの組くみ立たては、生せい理り學がく又また解かい剖ぼう學がくによらなければ説せきごがたご所ところもありますれば、こゝには略りやくします。

(以下次號)



史 傳

吉田松陰の母瀧子

下村三四吉

江戸幕府時代の末すへつ方かた、我わがが國こく人じんを二百餘年間鎖國さこく泰平たいへいの夢ゆめよりさましたる米艦べいかん初度しよどの渡來わたらいの翌年すなは、即すなはち安政元年あんせいげん、海外かいがいに遊あそび、世界せかいの形勢けいせいを視察しさつせんとて、再來さいらいの米艦べいかんに便乘べんじやうを依頼いらいして拒絶きよつぜつせられ、國禁こくえんを犯おかせりとのかどにて罪つみを得わたるは、誰たれも知しる長州ちやうしやうの英傑えいけつ贈正四位吉田松陰きよたまたけその人ひとなり。氏しは、その後安政五年のちあんせいごねん時ときの大老たいらう井伊直弼いゐちきの服心ふくしんたる間部詮勝まなべごんかちつを京都きやうとに要撃ようげきせんことを企くわて、事こと成ならず、遂ついにはいはゆる安政大獄あんせいだいくの狂瀾きやうらんにまきこまれ、翌年すなは三十歳さいを一期いちごとして刑場けいじやうの